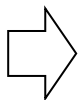


輪島塗職人による熊本地震被災陶器の再生プロジェクト (石川県 輪島市)

○事例概要

- ・平成28年の熊本地震で壊れた熊本の陶芸家の作品の陶片を使い、輪島塗職人の技術を活かして新しい器へと生まれ変わらせるプロジェクトを企画し、財源としてふるさと納税を活用。
- ・修復には割れた陶片を漆で接着し継ぎ目に金粉を蒔いて装飾する技法「金継ぎ」を用いる。熊本の陶芸家5人と輪島の職人がつながる意味を込めて「五陶輪（ごとうりん）」プロジェクトと命名。
- ・平成19年に能登半島地震で被災した際、全国からの支援活動を通じて様々な交流が生まれた経験を活かして、熊本地震の際には被災地（7市町村）の支援のためふるさと納税の受付代行を実施。継続的な復興支援には人がつながり交流することが必要との思いから、今回のプロジェクトの実施に至った。



割れたり欠けたりした器を漆で接着し、継ぎ目に金銀などの粉を蒔いて装飾する技法「金継ぎ」を用いる。輪島塗の蒔絵職人の技術が生かされる。

○寄付実績

平成29年度 263件 7,944千円

※募集期間：平成29年8月1日～9月30日(9月21日時点)



○事業効果等

- ・継続的な被災地支援のあり方として、人と人のつながり、ものづくりを通しての交流を続けることの意義をアピールできた。
- ・熊本地震発生2年となる来年4月までに作品を完成させ、熊本県や輪島市、東京で展示し茶会にも用いる予定。
- ・輪島と熊本両地域の陶芸家と職人が、制作活動を通じた技術交流を行うことにより、新たな伝統工芸の可能性を提示。

○事業の評価

- ・ふるさと納税を活用し、被災地熊本を支援した自治体はほかにもあるが、「陶器再生プロジェクト」という絞り込みをして支援している点はユニーク。伝統産業の支援という点で輪島市ならではの取り組みと言える。
- ・一度は壊れたものを再生し、さらに価値あるものとするのが現代的